

「あって良かった！食料の家庭備蓄懇談会」について

1 目的

近年、全国各地で大規模な災害が頻発し、地域の食料供給が途絶えるケースも発生している中で、食料の家庭備蓄を促し、不測の事態に当面の食料を自ら賄うことができる持続性ある社会づくりが重要となっている。

一方で、食料の家庭備蓄の必要性はある程度理解されても、実際に取り組む世帯とそうでない世帯に二極化し、取組が普及しない状況にある。その原因の一つとして、家庭備蓄の必要性が実感できる情報や、普段の生活で家庭備蓄を実践しやすくする方法の蓄積が不足していることが挙げられる。また、日頃から家庭備蓄を促す情報発信が十分でなく、必要な情報が各家庭に効果的に届いていないことが考えられる。

このため、家庭備蓄の一層の普及に関する調査等を実施するとともに、有識者等で構成する「あって良かった！食料の家庭備蓄懇談会」（以下、「懇談会」という。）を開催することを通じて、平素から食料の家庭備蓄を実践しやすくする方法や、アレルギー等要配慮者を持つ家庭が実践しやすくなる方法を検討するとともに、それらの効果的な情報発信・プロモーションの方向を検討する。また、これらの検討等を踏まえ、家庭備蓄の普及に向けた政策的な対応を提言として取りまとめる。

2 進め方

12～2月に懇談会を4回程度開催し、以下の項目について検討する。

家庭で取り組みやすい食料備蓄の実践・工夫の知見の集約

- ・普段の生活で家庭備蓄を実践しやすくする方法
- ・備蓄食料の効率的な収納、保管の方法
- ・災害時や普段に活用しやすくする調理事例、商品事例
- ・地域や家庭に伝わる保存食の活用事例

アレルギー等要配慮者を持つ家庭が実践しやすくなる方法の検討

- ・子育て世帯、高齢者世帯、アレルギーや慢性疾患の方がいる世帯、単身世帯ごとの家庭備蓄の実践例に関する Web ページの作成
- ・乳幼児、高齢者、アレルギー、慢性疾患の方向け家庭備蓄ガイドの作成
- それらの効果的な情報発信・プロモーション方向の検討